

2002年第31週報告分

- 発生動向総覧 / 調査票通信
- 全数届出患者数一覧表
- 定点報告疾病集計表
- 疾病別グラフ(四類定点週報告分)
- 病原体検出情報(表・グラフ)
－手足口病・ヘルパンギーナ－
- 年齢階級別累計表
- 保健所別累計表
- 保健所別定点当たり累計表

感染症トピックス

CDCからの公衆衛生至急通報

- プレーリードッグ流通施設における野兔病の
集団発生 -2002年-,米国

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都立衛生研究所疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



発生動向総覧 (東京都)

31週分

(全数情報)

- ・コレラが 1件報告された。菌型はO1エルトル稲葉型 (推定感染地 :国内)である。73歳男性で、最近渡航歴はなく、感染原因は不明である。
- ・細菌性赤痢が 1件報告された。菌型はソンネ菌 (推定感染地 :パキスタン)である。
- ・腸チフスが 2件報告された。患者は友人同士で、そのうち1人は西アフリカ諸国への渡航歴がある。
- ・腸管出血性大腸菌感染症が 4件報告された。すべてO157 (VT2産生株 3件、VT1+VT2産生株 1件)で、入院およびHUSの報告はなかった。
- ・急性ウイルス性肝炎が 2件報告された。2件ともA型 (経口感染)で、推定感染地は国内 1件、中国 1件である。
- ・クロイツフェルト・ヤコブ病が 1件報告された。孤発性で、臨床診断で決定された。感染経路は不明である。
- ・HIV感染症が 7件報告された。AIDS 1件、無症候性キャリア 6件で、推定感染経路は異性間性的接触 4件、同性間性的接触 3件である。
- ・ジアルジア症が 2件報告された。推定感染地は国内 1件、アメリカ 1件である。国内例は 45歳男性で、最近渡航歴はなく、感染原因は不明である。
- ・梅毒が 1件報告された。早期顕症梅毒 期 (異性間性的接触)である。
- ・バンコマイシン耐性腸球菌感染症が 1件報告された。遺伝子型はvan Bで、尿路感染症にて入院中の 82歳男性より検出された。
- ・レジオネラ症が 1件報告された。推定感染地は国内で感染経路は不明である。

-
- ・30週にコレラ (O1エルトル稲葉・推定感染地 :国内)1件が追加報告された。35歳の女性で最近渡航歴はなく、感染原因は不明である。(O1エルトル小川 1件、O1エルトル稲葉 2件からO1エルトル小川 1件、O1エルトル稲葉 3件に変更)
 - ・30週で報告のあったジアルジア症 1件の推定感染地がアメリカから不明に変更になった。
(推定される感染地は医師の届出によるものです)

(定点情報)

- ・ヘルパンギーナ・手足口病は減少を続けているが、咽頭結膜熱はこの 2週間増加している。

(病原体情報)

- ・無菌性髄膜炎 6例の検体 (髄液 5件、咽頭拭い液 1件)、不明発疹症 1例の咽頭拭い液、急性胃腸炎 1例の便、夏かぜ様症状 1例の咽頭拭い液、急性耳下腺炎 1例の咽頭拭い液 (ムンプスウイルス陰性)よりエコーウイルス 13型が分離された。
- ・ヘルパンギーナ 1例の咽頭拭い液よりコクサッキーウイルスA群 4型が分離された。
- ・無菌性髄膜炎 7名、発疹症 3名、呼吸器感染症 4名、その他 2名の計 16名から採取した検体 19件より、PCR法によりエンテロウイルスの遺伝子が検出された。

- ・菌株で搬入されたMRSA2株のコアグラマーゼ型は共に 型であった。
- ・胃腸炎家族内発生の1事例において、3人からNLV(SRSV)が検出された。
- ・多摩地域の定点から搬入された感染性胃腸炎患者のふん便より、カンピロバクターが1件検出された。
- ・クラミジア・トラコマチス特異抗体が40件検体中11件検出された。

(その他の情報)

- ・急性肝炎4例の検体が、E型肝炎の検査の目的で都衛研に搬入された。

調査票通信

定点医療機関からのコメントを掲載

新宿

- ・成人(24歳女性)の手足口病症例がありました。長女よりの感染と思います。
11歳女児のムンプス症例は血小板減少を合併しました。

村山大和

- ・運動後、夕方になって高熱で来院する人(少年、成人)が多い。熱中症を疑って、BUN、クレアチニン、CPK、CRP、血球算定で、異常のない人は、ヘルパンギーナを疑って、病院へ転送する。

全数届出患者数一覧表 2002年31週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		28週	29週	30週	31週	年累計	31週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	コレラ			4	1	10	1	24
	細菌性赤痢		2		1	48	6	444
	腸チフス			1	2	18	3	39
	パラチフス			1		9		22
	急性灰白髄炎							
	ジフテリア							
三類	腸管出血性大腸菌感染症	15	19	8	4	96	184	1594
四類 (全数届出)	アメーバ赤痢	1		4		64	3	260
	エキノкокクス症							5
	黄熱							
	オウム病					2		44
	回帰熱							
	ウイルス性肝炎(急性肝炎)	3		6	2	127	10	662
	Q熱	9				28		33
	狂犬病							
	クリプトスポリジウム症					3		104
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1	5		77
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					8	1	61
	後天性免疫不全症候群	5	6	8	7	212	12	504
	コクシジオイデス症							2
	ジアルジア症		1	1	2	36	1	68
	腎症候性出血熱							
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		5
	先天性風疹症候群							
	炭疽							
	ツツガムシ病					6	2	114
	デング熱		1			10	1	32
	日本紅斑熱							7
	日本脳炎							
	乳児ボツリヌス症							
	梅毒	1	1	1	1	35	4	323
	破傷風			1		4	4	56
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	6		24
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	ブルセラ症					1		1
	発疹チフス							
マラリア	1	2			15		47	
ライム病					2		7	
レジオネラ症				1	11	10	72	

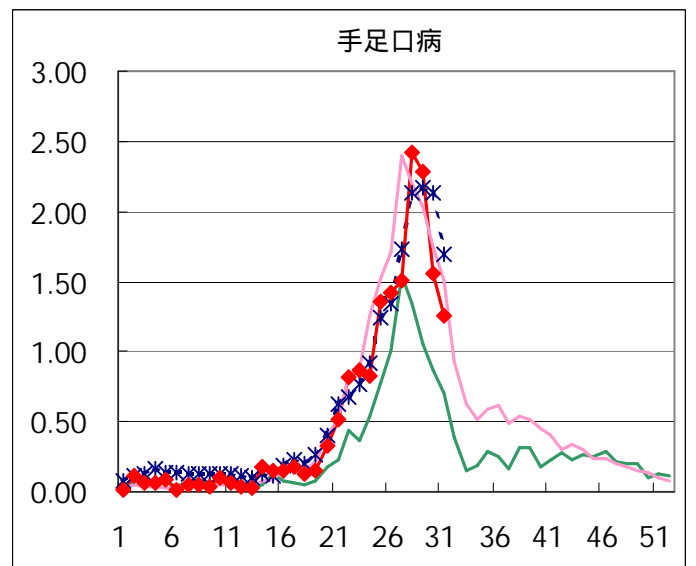
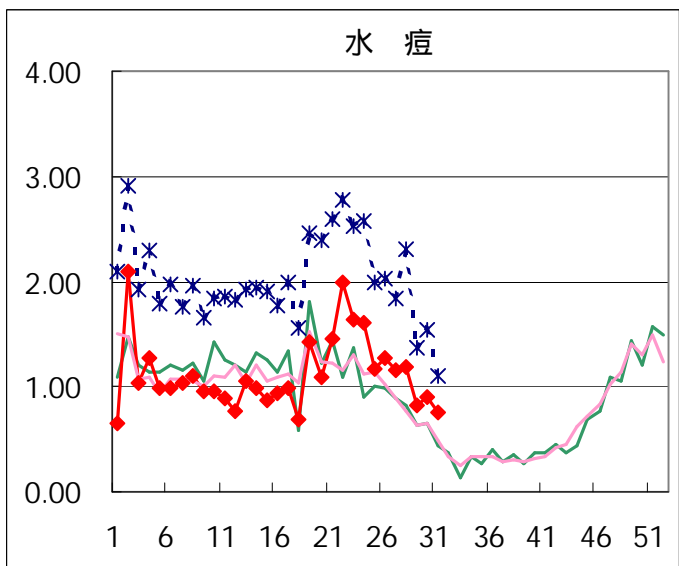
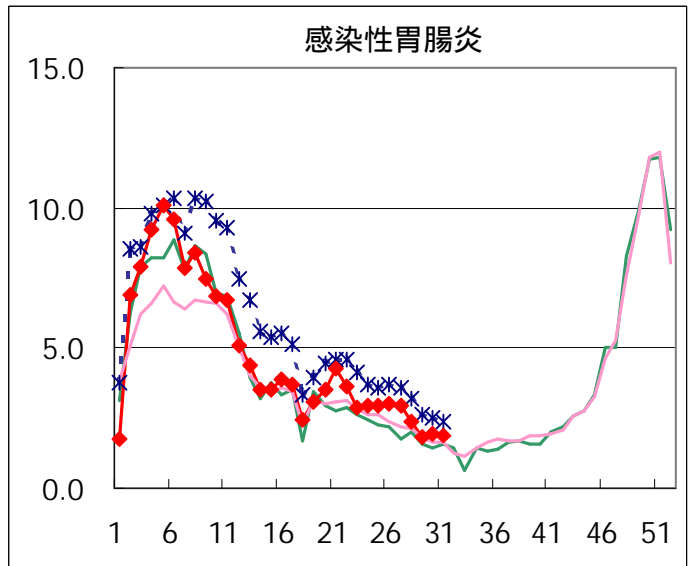
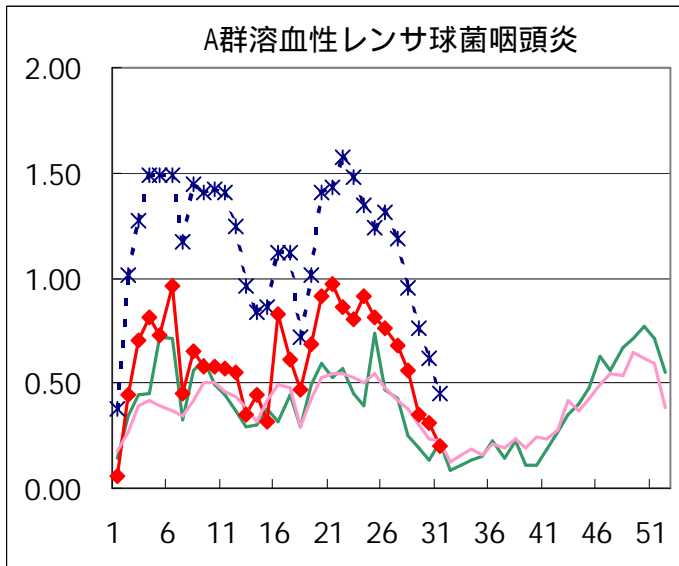
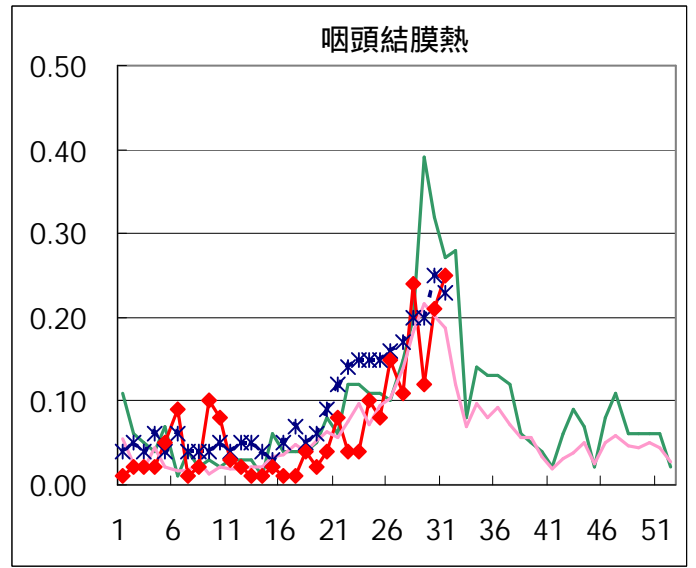
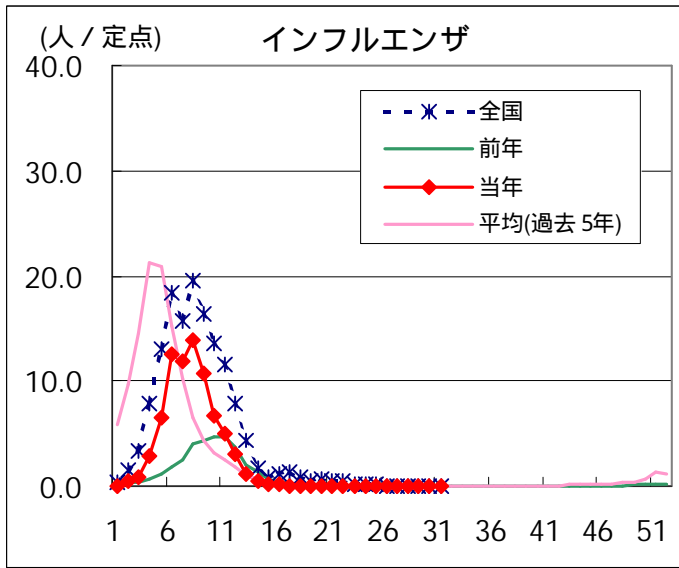
医師からの追加届出により増加することがあります(2002/08/13集計)。

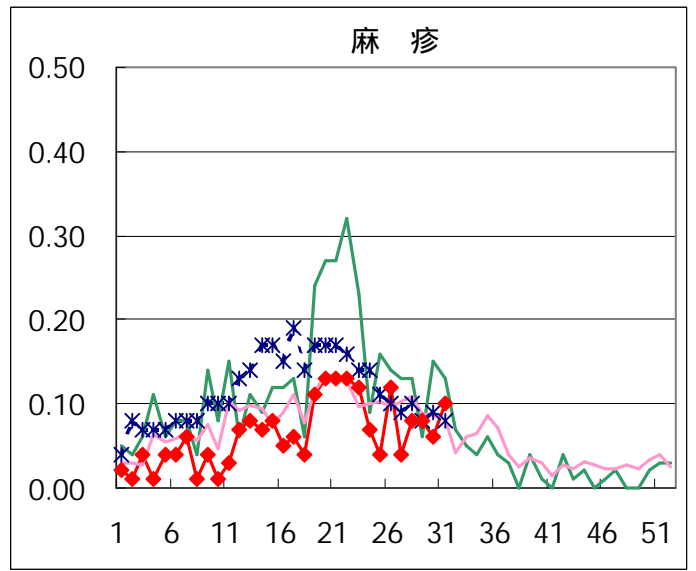
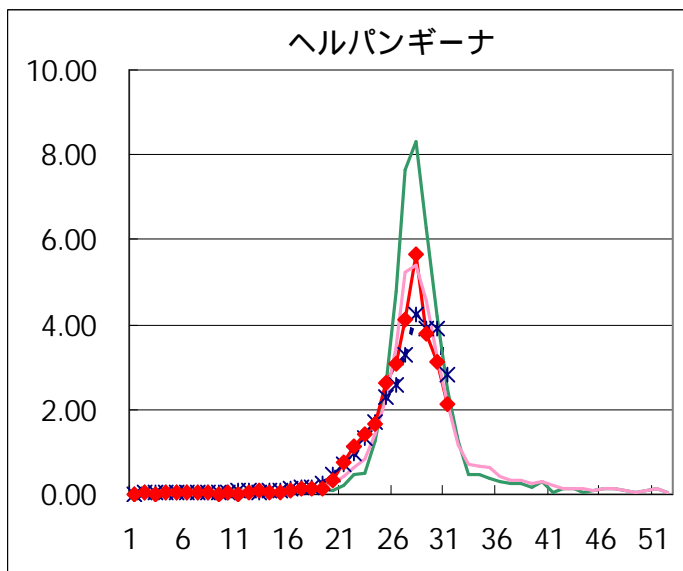
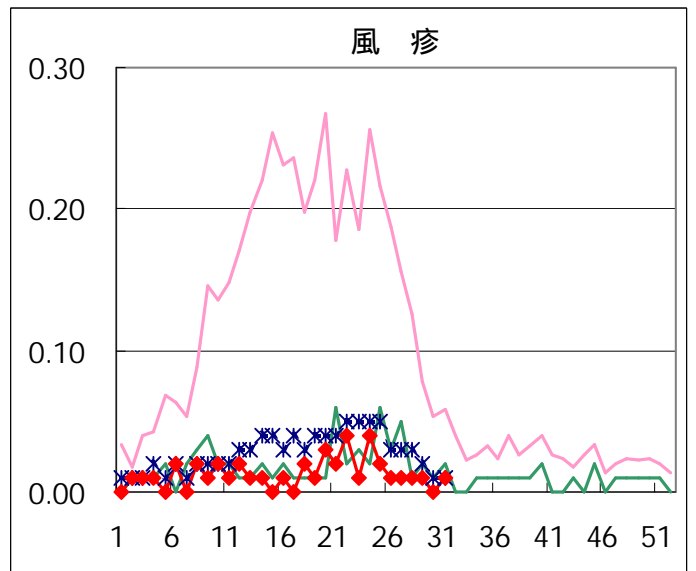
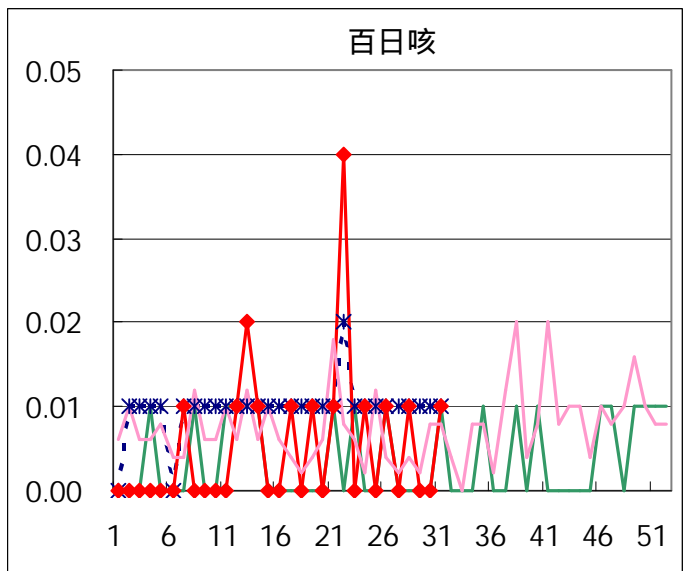
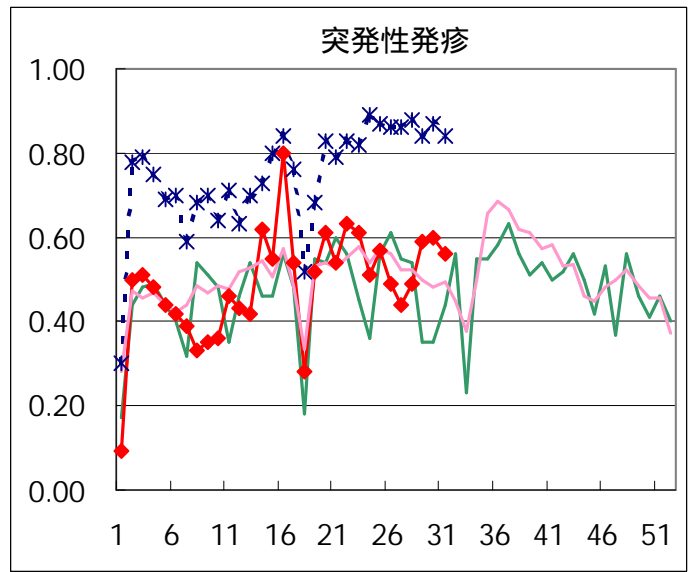
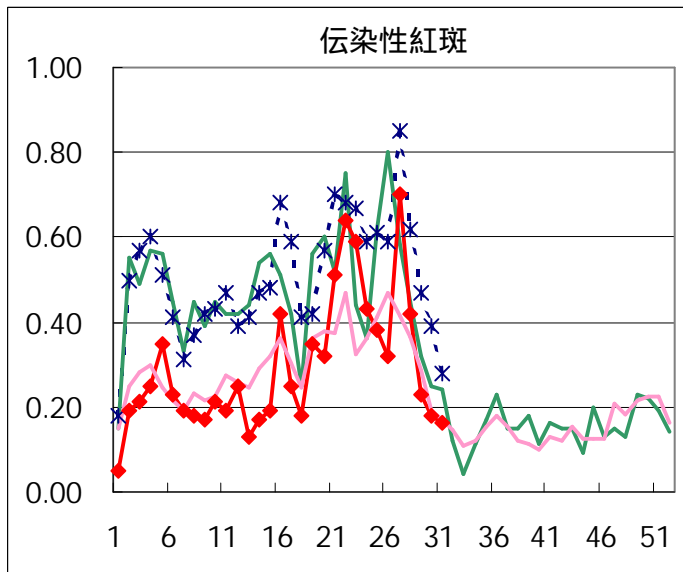
定点報告疾病集計表（男女別）

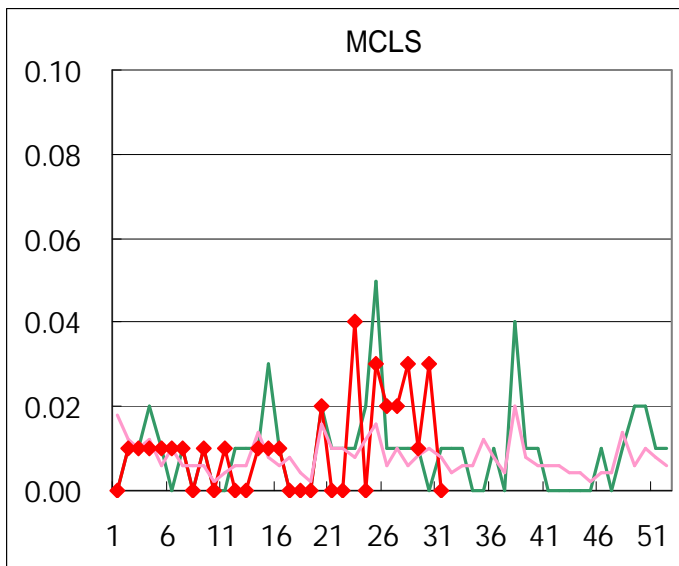
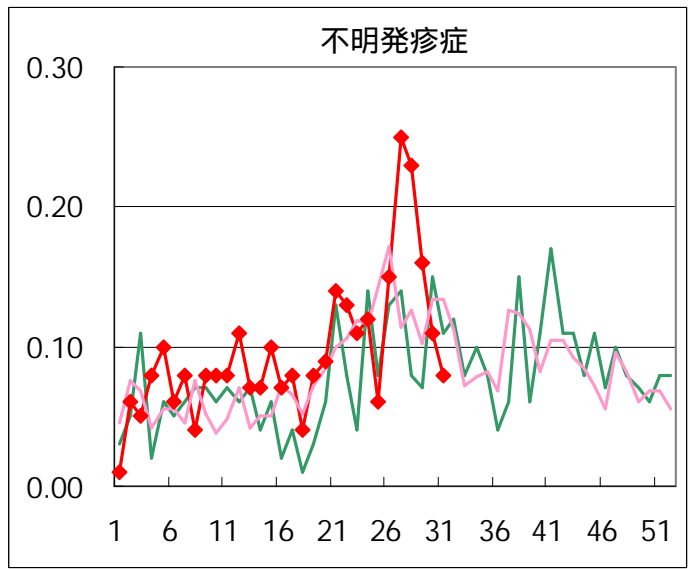
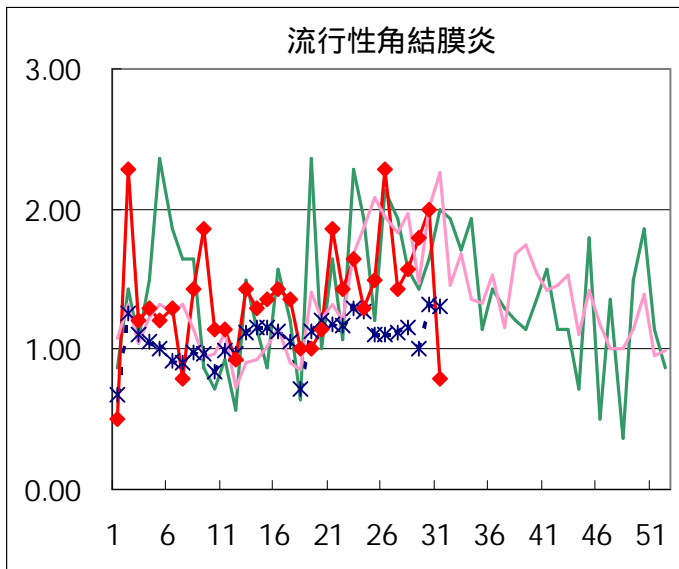
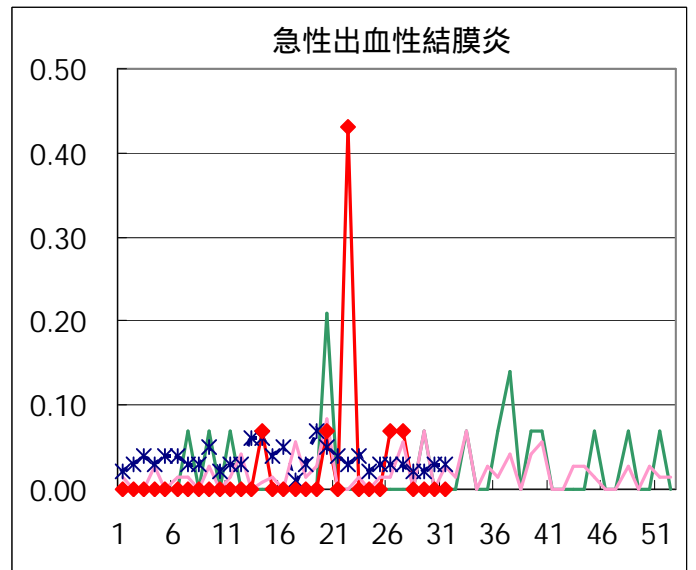
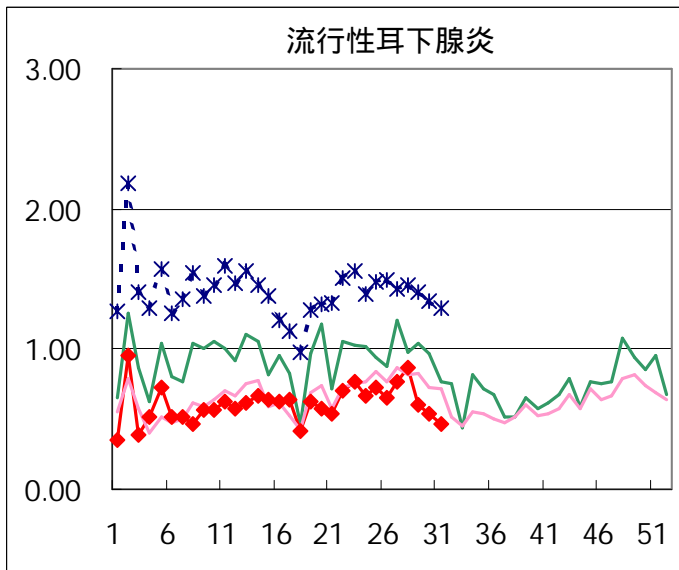
疾病名	性	2002年 週				累計
		28	29	30	31	
インフルエンザ	男					
	女					
咽頭結膜熱	男	25	11	16	18	70
	女	9	6	14	17	46
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	40	35	30	12	117
	女	40	15	14	17	86
感染性胃腸炎	男	201	138	155	143	637
	女	141	119	122	124	506
水痘	男	85	70	63	53	271
	女	82	47	65	56	250
手足口病	男	202	178	119	94	593
	女	142	146	103	84	475
伝染性紅斑	男	29	16	13	13	71
	女	31	16	13	10	70
突発性発疹	男	45	49	43	43	180
	女	24	35	42	36	137
百日咳	男	1			1	2
	女	1				1
風疹	男	2			1	3
	女		1		1	2
ヘルパンギーナ	男	404	290	224	167	1085
	女	396	244	221	142	1003
麻疹(成人以外)	男	6	6	8	9	29
	女	6	5		5	16
流行性耳下腺炎	男	62	44	41	39	186
	女	61	41	36	28	166
不明発疹症	男	17	16	12	9	54
	女	16	7	4	4	31
MCL S	男	3	2	3		8
	女	1		1		2
急性出血性結膜炎	男					
	女					
流行性角結膜炎	男	10	17	18	6	51
	女	12	8	10	5	35
急性脳炎（日本脳炎を除く）	男					
	女					
細菌性髄膜炎	男				2	2
	女					
無菌性髄膜炎	男	1	2	5		8
	女			4		4
マイコプラズマ肺炎	男		1		1	2
	女					
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	男					
	女					
成人麻疹	男	3	3	1	3	10
	女	2	2	3		7

「累計」欄は、当週を含む過去4週分の合計を示したものです。空欄は、報告がなかったことを示しています。

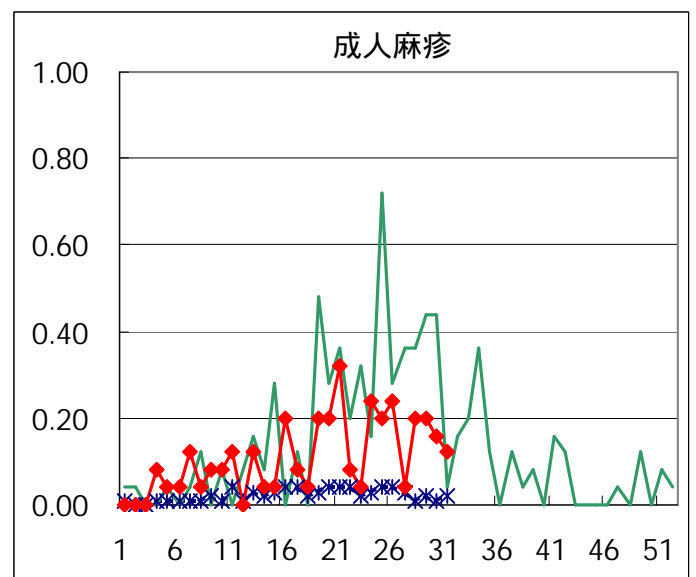
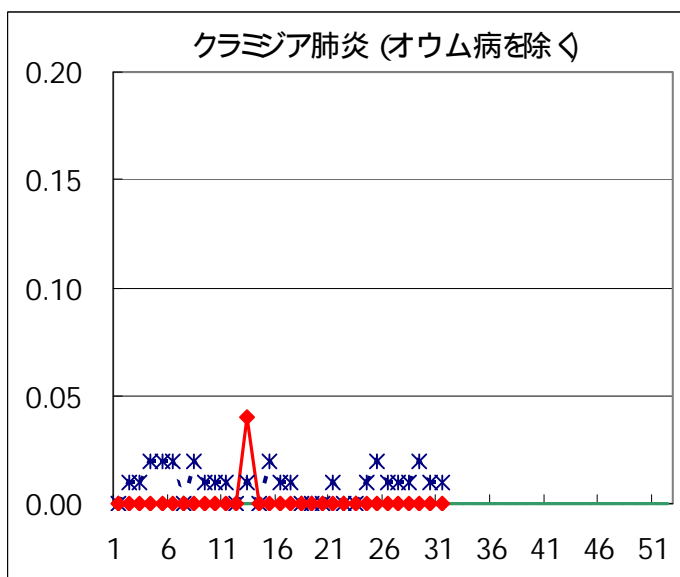
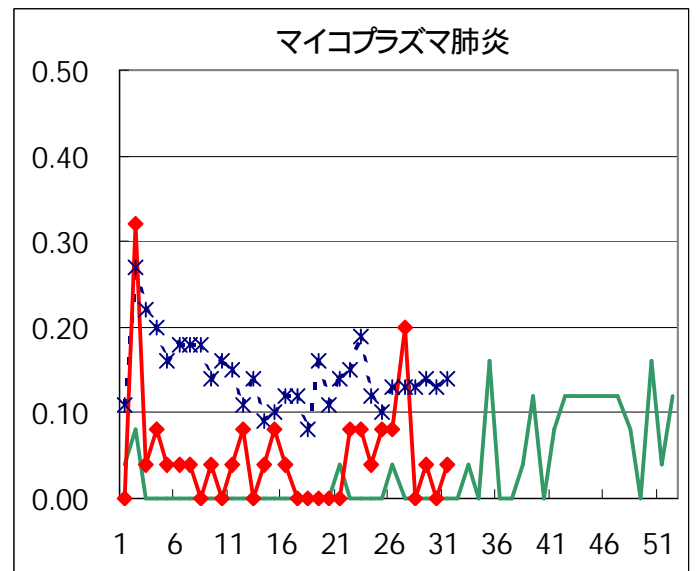
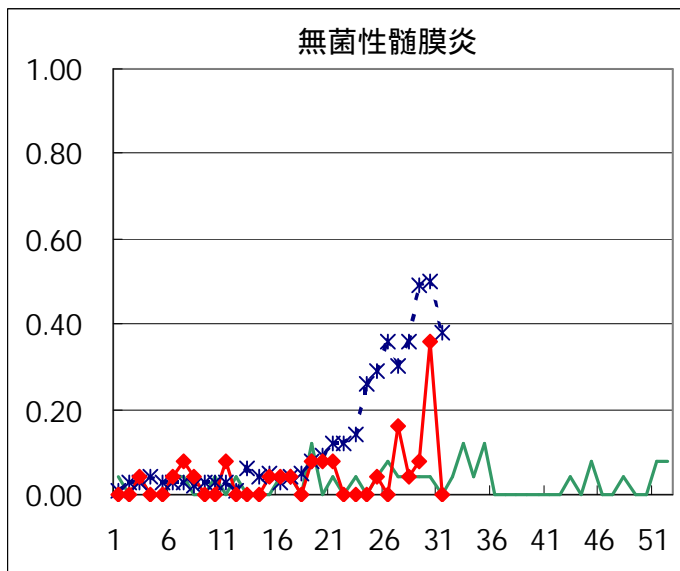
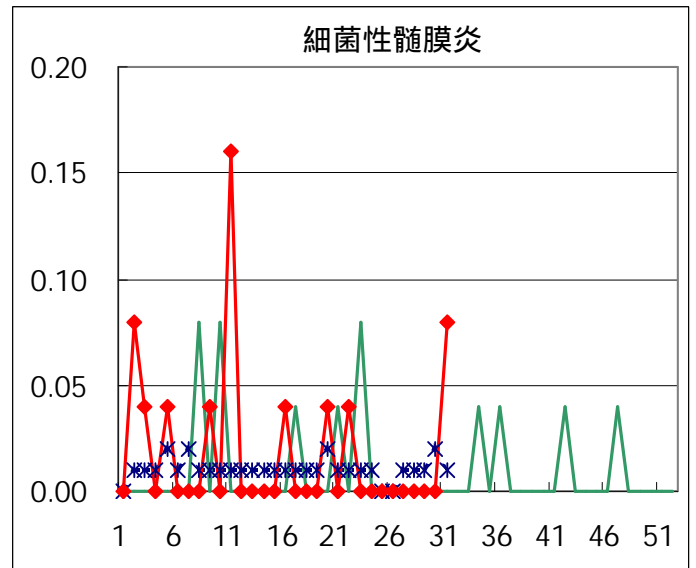
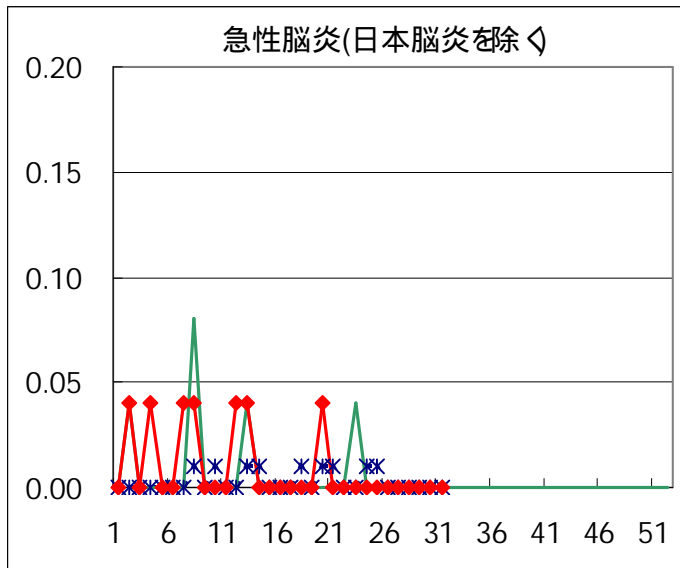
疾病別グラフ (四類定点週報告分)







疾病別の定点医療機関数	
疾病	医療機関数
インフルエンザ	178
急性出血性結膜炎	14
流行性角結膜炎	
急性脳炎	25
細菌性髄膜炎	
無菌性髄膜炎	
マイコプラズマ肺炎	
クラミジア肺炎	
成人麻疹	142
上記を除く疾病	



病原体検出情報

週別病原体 抗体検出結果 (2002年 24~ 31週)

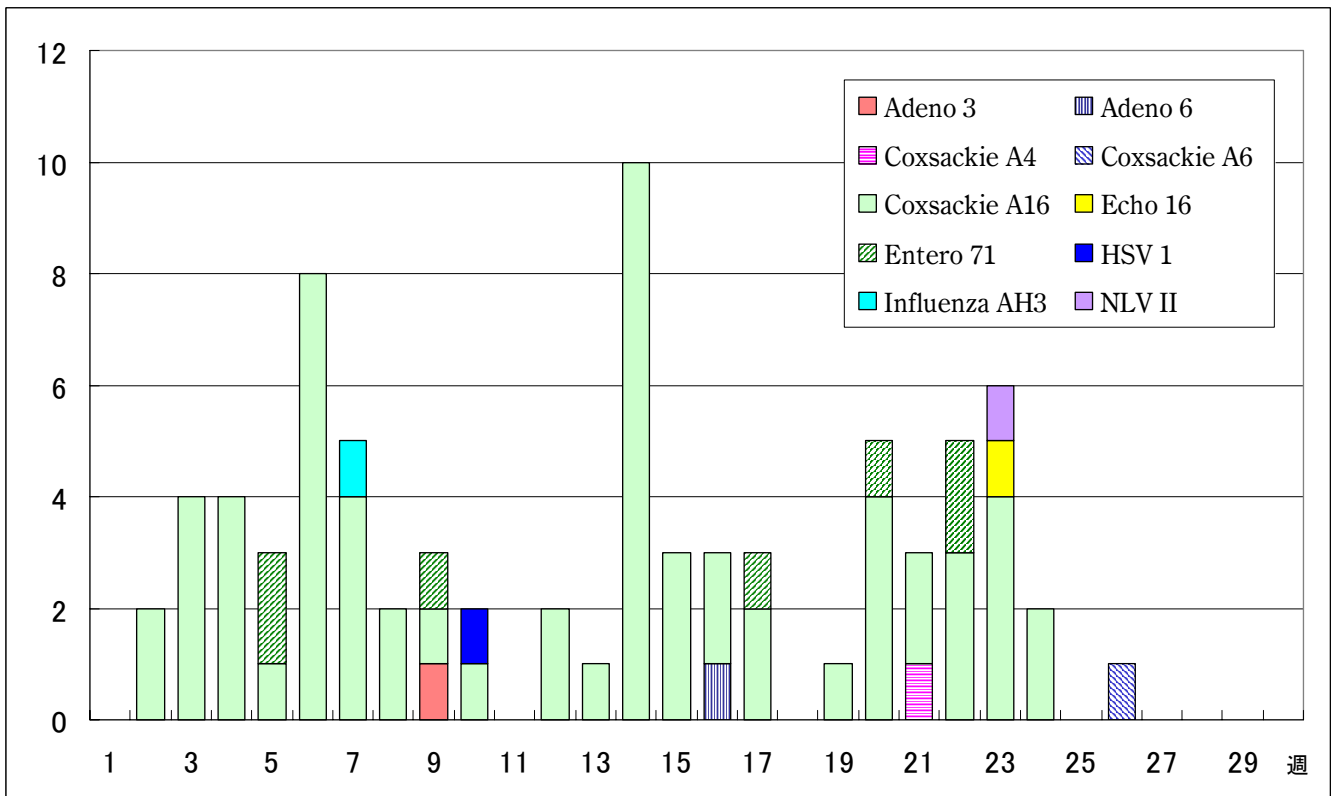
検出病原体 抗体		検体採取週								合計	
		2002年									
		24	25	26	27	28	29	30	31		
ウイルス	インフルエンザAソ連型										
	インフルエンザA香港型										
	インフルエンザB型										
	RSV										
	アデノ	1	4	3	9	5	3	1	1	27	
	エンテロ	2	16	13	30	34	28	25	9	157	
	SRSV=NLV	2	16	3	9	3	1	2	3	39	
	ロタ	1								1	
	単純ヘルペス							1		1	
	水痘 帯状疱疹	1								1	
	EBV		2							2	
	CMV							2		2	
	HHV6/7					3				3	
	ムンプス	1			2					3	
	麻疹	1								1	
	パルボB19	1								1	
	分離型別	ポリオ1									
		ポリオ2									
		アデノ1				1					1
		アデノ2			1						1
アデノ3						2				2	
エコー13		2	1		4	7	6	9		29	
コクサッキーA6						7		3		10	
抗体	デング		1							1	
	ツツガムシ										
電顕											
細菌	カンピロバクター	1		2		1		1	1	6	
	サルモネラ										
	下痢原性大腸菌				1					1	
	エロモナス				1					1	
	O157										
	MRSAコアグラウゼ 型		2	2		1				5	
	MRSAコアグラウゼ 型	3	1	7	3	3	4		2	23	
	MRSAコアグラウゼ 型										
	MSSAコアグラウゼ 型	1								1	
	溶連菌 T-1型	1	1	1	1	1	1			6	
	溶連菌 T-3型		2	2		1		2		7	
	溶連菌 T-4型										
	溶連菌 T-6型				1					1	
	溶連菌 T-12型	3	1				1			5	
	溶連菌 T-22型										
	溶連菌 T-25型			1						1	
溶連菌 T-28型		1							1		
溶連菌 UT											
性感染症	梅毒	2			1	1		1		5	
	クラミジア抗体	29	14	14	22	26	14	16	11	146	
	クラミジア遺伝子	3	1	1	1			1		7	
	淋菌遺伝子				1	1				2	

臨床診断名別病原体検出結果 (2002年 24 ~ 31週)

臨床診断名 検出病原体	(イン 脳 炎 フ を ル 含 む ン) ザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	咽 頭 結 膜 熱	球 菌 咽 頭 炎	A 群 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	脳 炎	ヘル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	発 疹 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	口 内 炎	水 痘	そ の 他	合 計
インフルエンザAソ連型																		
インフルエンザA香港型																		
インフルエンザB型																		
RSV																		
アデノ		4	4	1		11						1					6	27
アデノ1		1																1
アデノ2		1																1
アデノ3		1		1														2
エンテロ		21	17			7	47	1	8	9	2	20		1			24	157
エコー 13		4				2	12					7	1				3	29
コクサッキー A6									6	2		2						10
ポリオ 1																		
ポリオ 2																		
ムンプス													2				1	3
SRSV = NLV						39												39
ロタ						1												1
単純ヘルペス															1			1
水痘 帯状疱疹																1		1
パルボ B19																	1	1
カンピロバクター						5											1	6
サルモネラ																		
下痢原性大腸菌						1												1

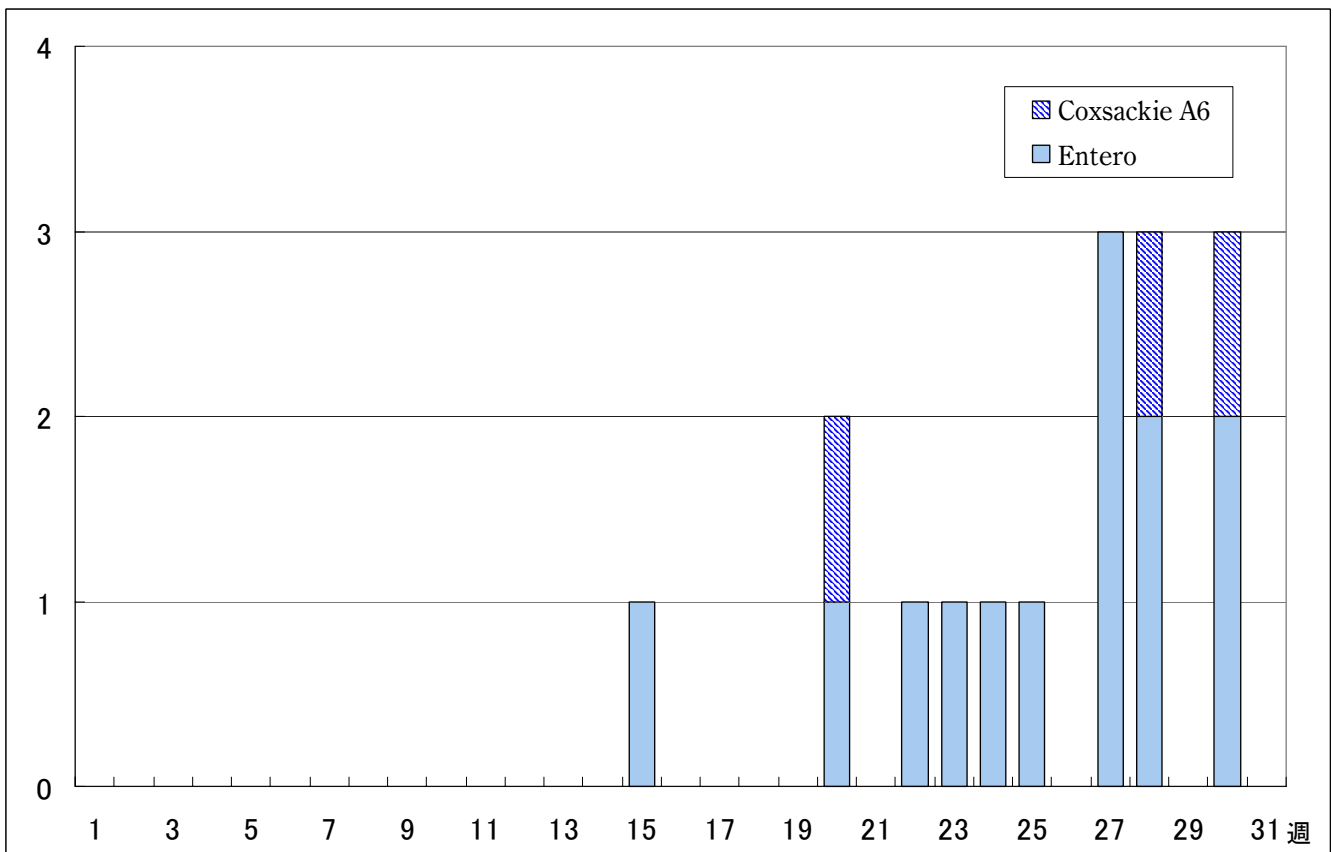
病原体検出情報（手足口病）

手足口病患者から検出されたウイルス（全国）



病原微生物検出情報(2002年7月24日現在報告数)

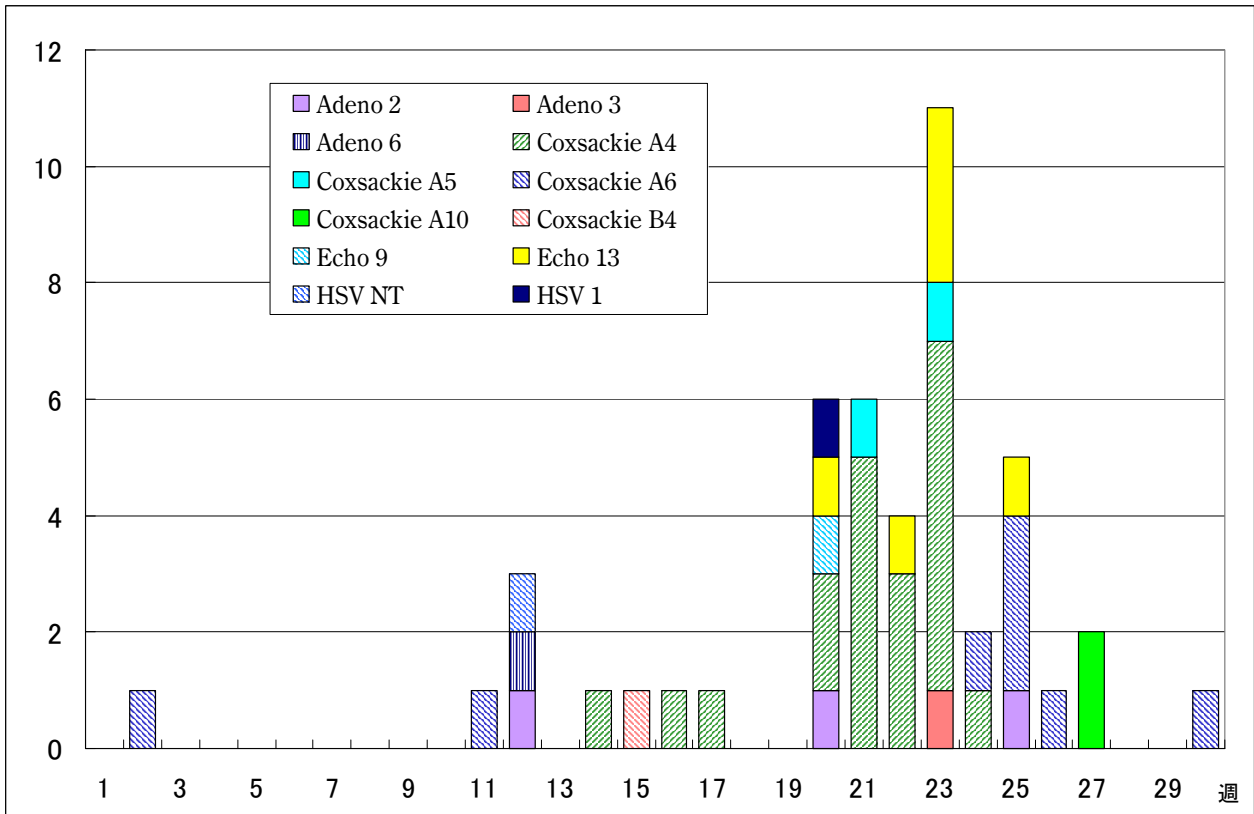
手足口病患者から検出されたウイルス（東京都）



微生物部ウイルス研究科

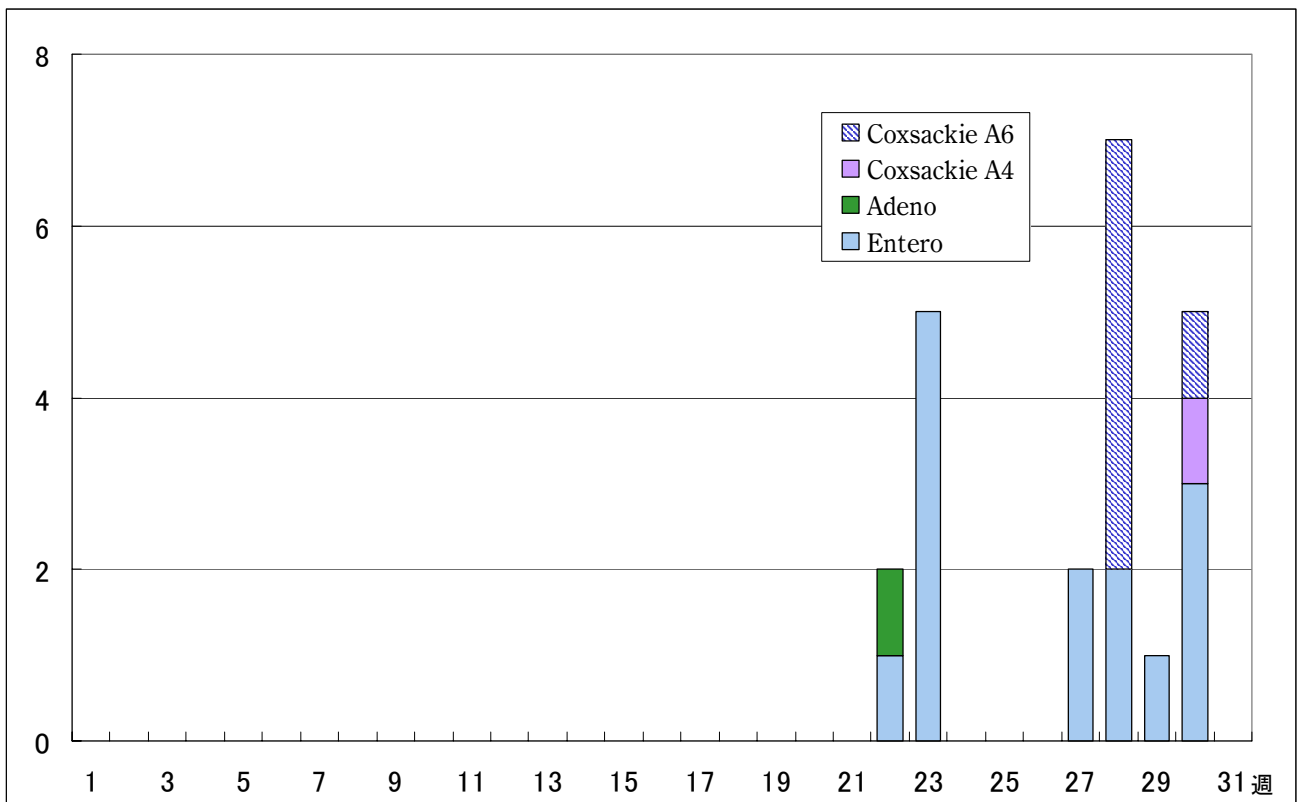
病原体検出情報（ヘルパンギーナ）

ヘルパンギーナ患者から検出されたウイルス（全国）



病原微生物検出情報(2002年7月24日現在報告数)

ヘルパンギーナ患者から検出されたウイルス（東京都）



微生物部ウイルス研究科

年齢階級別累計表(2002年 31週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCL S
～6ヶ月				3	1	2		7			4				1	1	
～1歳		2		16	11	16		46	1	1	31	2				5	
1歳		3	1	37	27	33		21		1	74	3	5			4	
2歳		3		21	23	45	4	5			57	2	6				
3歳		5	3	23	15	28	4				44		8				
4歳		5	5	31	12	24	4				38		13				
5歳		3	4	20	8	11	4				25		14				
6歳		5	4	10	3	4	4				11	2	10				
7歳		3	3	12	2	6	3				5	2	2				
8歳		2		13	3	4					2		2				
9歳		2	1	8	1						1						
10～14歳		2	4	15	2	1					7	1	4			1	
15～19歳			1	8							2				1	1	
20～29歳			3	50	1	4					8	2	3		1	1	
30～39歳															6		
40～49歳																	
50～59歳															1		
60～69歳																	
70～79歳															1		
80歳以上																	
合計	0	35	29	267	109	178	23	79	1	2	309	14	67	0	11	13	0
先週比	0	5	-15	-10	-19	-44	-3	-6	1	2	-136	6	-10	0	-17	-3	-4

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別累計表 (2002年 31週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
千代田		1			2	2					8					1		14
中央区				8	4	1	1	4			3		1			1		23
みなと		3	1	1				1			1		2		2			11
新宿区			2	18	2	13		4			6	1	1		5	1		53
文京			1	2	1			1			1	1			3			10
台東		2		13		10	1	2			34							62
墨田区				2	3	6		2			4		1					18
江東区				13	1	5		2			5	2	2					30
品川区			1	4	2	1		9			25		2					44
目黒区			1		1	2		6			8		1					19
大田区		1	4	24	6	11	6	7			11	1	4					75
世田谷区		8	1	18	5	5	1	3			13		4			1		59
渋谷区				16	4	4		2			3		1					30
中野区		2		31	5	4		2			8		2			2		56
杉並			1	1	1	12	1				3	1	1					21
池袋		2	2								1				1			6
長崎			1	2	1			1					1					6
北区		8	2	4	6	10	5	3			10	1	1					50
荒川区				3		1					8	1						13
板橋区			1	2	1	1					6		1			1		13
練馬区			1	4	5	5	1				12		1					29
足立		2		8	2	2		1			5		4					24
葛飾			8	16	13	7		6	1		27	1	2			1		82
江戸川		2		5	4	16		5			17							49

保健所別累計表 (2002年 31週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
多摩川		1			5	19	2	3		1	20		8					59
秋川				3		1	1						7					12
八王子		1			5	5		3			13		2					29
南多摩			1	8	2	4	2	2		1	8		5					33
町田				24	4	9		1			11		2					51
多摩立川				9	5	3	1				1	2	2					23
村山大和				4	5	3					5		2			4		23
府中小金井						1		2			1		1					5
狛江調布		2	1	3	4	2		2			2		1			1		18
三鷹武蔵野				1	5	8					1	2	3					20
多摩小平				2	3	2					15							22
多摩東村山				18	2	3	1	5			11	1	1					42
島しょ											2		1					3

東京都合計	-	35	29	267	109	178	23	79	1	2	309	14	67	-	11	13	-	1137
定点当り報告数	-	0.25	0.20	1.88	0.77	1.25	0.16	0.56	0.01	0.01	2.18	0.10	0.47	-	0.79	0.09	-	

保健所別累計表（定点当り） 2002年31週

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS
千代田		0.25			0.50	0.50					2.00					0.25	
中央区				2.67	1.33	0.33	0.33	1.33			1.00		0.33			0.33	
みなと		0.50	0.17	0.17				0.17			0.17		0.33		2.00		
新宿区			0.33	3.00	0.33	2.17		0.67			1.00	0.17	0.17		2.50	0.17	
文京			0.33	0.67	0.33			0.33			0.33	0.33			3.00		
台東		0.67		4.33		3.33	0.33	0.67			11.33						
墨田区				0.67	1.00	2.00		0.67			1.33		0.33				
江東区				4.33	0.33	1.67		0.67			1.67	0.67	0.67				
品川区			0.17	0.67	0.33	0.17		1.50			4.17		0.33				
目黒区			0.33		0.33	0.67		2.00			2.67		0.33				
大田区		0.11	0.44	2.67	0.67	1.22	0.67	0.78			1.22	0.11	0.44				
世田谷区		1.00	0.13	2.25	0.63	0.63	0.13	0.38			1.63		0.50			0.13	
渋谷区				4.00	1.00	1.00		0.50			0.75		0.25				
中野区		0.33		5.17	0.83	0.67		0.33			1.33		0.33			0.33	
杉並			0.17	0.17	0.17	2.00	0.17				0.50	0.17	0.17				
池袋		0.50	0.50								0.25				1.00		
長崎			1.00	2.00	1.00			1.00					1.00				
北区		2.00	0.50	1.00	1.50	2.50	1.25	0.75			2.50	0.25	0.25				
荒川区				1.50		0.50					4.00	0.50					
板橋区			0.17	0.33	0.17	0.17					1.00		0.17			0.17	
練馬区			0.20	0.80	1.00	1.00	0.20				2.40		0.20				
足立		0.50		2.00	0.50	0.50		0.25			1.25		1.00				
葛飾			2.00	4.00	3.25	1.75		1.50	0.25		6.75	0.25	0.50			0.25	
江戸川		0.50		1.25	1.00	4.00		1.25			4.25						

保健所別累計表（定点当り） 2002年31週

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS
多摩川		0.33			1.67	6.33	0.67	1.00		0.33	6.67		2.67				
秋川				1.50		0.50	0.50						3.50				
八王子		0.50			2.50	2.50		1.50			6.50		1.00				
南多摩			0.33	2.67	0.67	1.33	0.67	0.67		0.33	2.67		1.67				
町田				12.00	2.00	4.50		0.50			5.50		1.00				
多摩立川				2.25	1.25	0.75	0.25				0.25	0.50	0.50				
村山大和				2.00	2.50	1.50					2.50		1.00			2.00	
府中小金井						0.33		0.67			0.33		0.33				
狛江調布		0.67	0.33	1.00	1.33	0.67		0.67			0.67		0.33			0.33	
三鷹武蔵野				0.25	1.25	2.00					0.25	0.50	0.75				
多摩小平				0.67	1.00	0.67					5.00						
多摩東村山				6.00	0.67	1.00	0.33	1.67			3.67	0.33	0.33				
島しょ											2.00		1.00				

東京都合計	-	35	29	267	109	178	23	79	1	2	309	14	67	-	11	13	-
定点当り報告数	-	0.25	0.20	1.88	0.77	1.25	0.16	0.56	0.01	0.01	2.18	0.10	0.47	-	0.79	0.09	-

《感染症トピックス》

CDC からの公衆衛生至急通報

プレーリードッグ流通施設における野兎病の集団発生 - 2002 年 - , 米国

野兎病は野生のゲツ歯類や野ウサギの間で流行をおこしている疾病で、病原体は好気性、グラム陰性、多形性小桿菌の野兎病菌 (*Francisella tularensis*) である。本疾病は人畜共通感染症の一つでもあり、その感染はダニなどによって媒介されるほか、病獣の肉や毛皮に接触して感染することも多い。北アメリカ、北ヨーロッパ、ロシアに広く分布している地方病で、本邦では 1924 年に大原八郎博士が初めての症例を発見した。以来、東北地方を中心として患者の発生が報告されている。

2002 年 8 月、米国疾病管理センター (CDC) はテキサス州内の動物流通施設で、ペットとして人気の高いプレーリードッグ間の野兎病集団発生を確認し、これを至急通信として報じた。

以下に、MMWR に掲載された「公衆衛生至急通報：プレーリードッグ流通施設における野兎病の集団発生 - 2002 年 -」¹⁾ について紹介する。

テキサス州内の動物流通業者施設で、捕獲された野生のプレーリードッグ (*Cynomys ludovicianus*) (図) が死亡し、その死因が野兎病であることが最近確認された。州保健当局と CDC は全米の保健当局にその事実を通知するとともに、野兎病の集団発生の有無について調査を開始した。

2002 年 8 月 1 日に出荷が停止されるまでの間に、推定で 3,600 頭のプレーリードッグがテキサス州内の当該施設から出荷され、そのうちの約 250 頭が死亡している。発病した個体はいずれも 5 月 18 日にサウスダコタ州で捕獲が始まり、6 月 16 日にテキサス州の業者向けに出荷された一群のプレーリードッグの一部と信じられている。6 月 16 日以降にテキサス州の業者が出荷したプレーリードッグもしくは 5 月 18 日以降にサウスダコタ州の業者が出荷したプレーリードッグが回収の対象になっている。

感染した可能性があるプレーリードッグは米国内 (アーカンソー、フロリダ、イリノイ、ミシガン、ミシシッピ、ネバダ、オハイオ、テキサス、ワシントン、およびウェストヴァージニア州) の卸売業者、小売商と個人に販売されたほか、ベルギー、チェコ共和国、日本、オランダおよびタイに輸出されている。感染した可能性のあるプレーリードッグが出荷されたこれらの州や国々に対しては、CDC からその旨の通知がなされ、すでにテキサス州とチェコ共和国からは異常に多い数のプレーリードッグの発病や死亡報告が届いている。

野兎病は野兎病菌 (*Francisella tularensis*) に感染して発症する。ヒトでの潜伏期は普通 2 ~ 6 日であるが、1 ~ 14 日という場合もありうる。発症時の症状は一般に、突然の高熱、悪寒、頭痛、筋肉痛と衰弱感である。胸部不快感と乾性咳嗽は患者に共通してみられる症状である。その他の症状が現れるか否かは、いかにして感染したかによって異なる。例えば、菌が皮膚から進入した場合には進入部位に潰瘍が形成され、近接するリンパ節に炎症が生じる。米国でのヒトへの感染は

一般に野ウサギへの接触(例えば、その皮をはぐ作業)や野兎病菌を持ったダニ、ある種のアブ(メクラアブやウマバエ)に噛まれることによって起きる。米国内には型の異なる2種類の野兎病菌が分布していることが知られている。A型はB型に比べ、より毒性が強いが、どちらの型に感染しても重篤な症状を呈し、時には死に至ることもある。今回発病したプレーリードッグから検出された野兎病菌はB型株であった。

過去2週間に出荷され、発病もしくは死亡したプレーリードッグに触れた成人に対して、ドキシサイクリン(100 mg, 2回/日, 14日間)もしくはシプロフロキサシン(500 mg, 2回/日, 14日間)を服用するよう忠告する。これらの薬物は子供に対して副作用を引き起こす危険性が高いことから、感染した可能性がある子供達には、抗生物質の投与はせずに、14日間にわたって、体温の変化を観察する必要がある。過去2週間のあいだにプレーリードッグに接触した人で、発熱や、その他の野兎病を疑う兆候がある場合は医師の診断を受けるべきである。野兎病治療のための優先選択薬剤はゲンタマイシンとストレプトマイシンである。

感染したプレーリードッグとの関連が疑われる野兎病の州保健当局からの症例報告ならびに感染が疑われるプレーリードッグの出荷状況についての問い合わせは、CDC 生物媒介感染症部(CDC's Division of Vector-borne Infectious Diseases), telephone 970-221-6400, fax 970-221-6476, e-mail ncidprairiedoginquiries@cdc.gov. 宛てにされたい。

当該業者が扱うプレーリードッグは日本にも輸出されていることから、CDCからの連絡を受けた厚生労働省は、輸入されたプレーリードッグに関する情報の収集と地方自治体や医療機関への情報提供を行っている。野兎病菌には少なくとも4種類の亜種の存在が知られており、北米に分布する亜種は日本や北ヨーロッパのそれに比べて強毒株であることから、十分な注意が必要である。なお、野兎病の診断と治療については日本医師会によってガイドライン²⁾が示されている。

(疫学情報室 荻野周三)

図. オグロプレーリードッグ (*Cynomys ludovicianus*)



Photo/CDC

1) MMWR: CDC, August 9, 2002 / Vol. 51 / No. 31 / 688, 699
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5131a5.htm>

2) 日医雑誌: 日本医師会, 生涯教育シリーズ 51『感染症の診断・治療ガイドライン』追補, 2002年, 第127巻 / 第8号 / 1375-1377頁
<http://www.med.or.jp/kansen/guide/yato.pdf>